

議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
	令和6年度第2回上尾市介護保険事業計画等推進委員会
事務局	<p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席者報告 出席者13名の報告。 委員の過半数が出席しているため会議成立していることを報告。 ・配布資料確認 ・第9期計画書 「正誤表」について説明 ・委員長 あいさつ
事務局	<p>2. 議事</p> <p>傍聴人確認 (傍聴人 1人)</p> <p>(1) 上尾市の介護保険事業の特徴について 「上尾市の介護保険事業の特徴について」(資料1-1)、『取組と目標』に対する自己評価シート」(資料1-2)に基づき説明。</p>
今村委員長	今の説明に対し質疑、意見はあるか。
根岸委員	医療と介護の連携で、入退院支援ルールの方針に伺った。施設と在宅の連携のルール化も重要と考えるが、ルールの方針等、具体的に予定しているのか。
事務局	現在、施設入退所という部分で、ケアマネとの連携を強化することは考えていない。ただし、入退院だけでなく、施設への入退所でも連携は必要であるため、検討していけるよう共有していく。
高山委員	資料1-2 「取組と目標」に対する自己評価シート、細目：介護給付の適正化の推進、「ケアプランの点検数を増加させる」の自己評価に×がついている。今後重視していくとのことだが、具体策をどのように考えているのか。外部に委託するのか、人材数を増加させるのか教えていただきたい。
事務局	8期計画では、コロナの影響もあり、運営指導・実地指導に合わせてケアプラン点検を行っていたため、数字が伴わなかった。今後、指定の有効期間の中で、事業者の負担にならないような形で、ケアプラン点検を行う方針である。
武藤委員	9期計画で、地域ネットワークの強化が謳われている。自治会活動を通してみると、担い手不足やボランティアの高齢化が進んでいる。地域ネットワークの強化について、具体的な施策を講じているのか。
事務局	通いの場については、93団体活動中である。リーダーの高齢化が課題であることから、新規団体を増やすために、リーダー育成のステップアップ講座、リーダー養成講座を開催している。また、活動費の支援という点で、補助金の支出を行っている。
細野委員	独居の方が在宅生活を継続できるチームワーク・体制はできているのか。
事務局	介護保険を利用している方で、要支援者であれば地域包括支援センター、要介護者であればケアマネージャーが、本人の希望を聞き取って対応している。本人の希望に応じて、可能な限り在宅生活を継続できるよう、サービスを組む体制を整えている。

<p>事務局</p> <p>今村委員長</p> <p>武藤委員</p> <p>事務局</p> <p>根岸委員</p>	<p>(2) 保険者機能強化推進交付金及び介護保険保険者努力支援交付金に係る評価指標について</p> <p>「保険者機能強化推進交付金及び介護保険保険者努力支援交付金に係る評価指標について」(資料2-1)、「評価指標一覧」(資料2-2)に基づき説明。</p> <p>今の説明に対し質疑、意見はあるか。</p> <p>介護保険保険者努力支援交付金に記載の地域支援事業のうち、介護予防・日常生活支援総合事業について、具体的な事業例を教えてください。</p> <p>通いの場の補助金や通所型・訪問型サービスA・サービスBといったものが該当する。</p> <p>努力支援交付金の目標Ⅱの活動指標群について、認知症の方向けの支援サポーターを増やしていく中で、チームオレンジに対しての補助金が全くついておらず、別の補助金から補填している状況で、それも3年までである。チームオレンジに対して補助金を支出することで、サポーターの増加が見込まれるほか、インセンティブ交付金の得点増につながると考えるが、市としてどう考えるか。</p>
<p>事務局</p> <p>高山委員</p> <p>事務局</p> <p>浦和委員</p> <p>事務局</p>	<p>ご指摘のとおり、市も課題として認識している。現在、他市の状況の調査研究中であるが、優先順位を上げて検討する。</p> <p>強化推進交付金の目標Ⅲの介護人材の確保の活動指標について、介護の仕事の魅力や伝達するための研修の修了者数がR6年度からR7年度にかけて減少目標になっている。「高齢者人口あたり」となっているため、今後高齢者数が増加することが明らかな中で、今後の流れに追いつくためにも、てこ入れが必要ではないか。</p> <p>第9期計画でも介護人材施策は重点施策としており、力を入れていく必要がある分野と捉えている。ご意見を踏まえ、他の施策も実行できないか、検討する。</p> <p>認知症の方向けの支援サポーターは、どの年齢層をターゲットに講習会の参加を募っているのか。また意見として、大阪府の富田林市では、小学生に認知症のPRを行い、小学生が認知症サポーターを行っている。また、市民全体に認知症の方に対する支援のPRが積極的に行われている。</p> <p>現状、地域の団体から「認知症サポーターの養成講座を行いたい」という希望があったときに、講師の派遣を行っている。また、市の教育委員会と連携を取りながら行っており、昨年度は上尾中学校に依頼し、希望者という形ではあるが、認知症サポーターの養成講座に20人前後受講している。小学校・中学校に引き続き要請を行っていく。また、さらに多くの市民の方にもサポーターになっていただくことも視野に入れながら、周知・啓発を進め、講習会の参加を募っていきたい。</p>
<p>浦和委員</p> <p>高山委員</p> <p>事務局</p>	<p>子供たちは高齢者と接する機会が多い。サポーターへの養成を検討していただきたい。</p> <p>努力支援交付金の目標Ⅰの7(ア)について、「介護予防・日常生活支援総合事業のサービスの実施状況、地域資源、利用者数の推移、心身及び生活状況の傾向のほか、現状では対応が困難な地域の困り事等を把握し、データを整理している」が×になっているが、高齢者人口や独居の高齢者数、意思疎通の難しい高齢者数が増加することが見込まれる中で、地域の困りごと等の把握について、取組の強化をお願いしたいが、市の考えをお伺いしたい。</p> <p>高齢者数の増加に伴い、地域の困りごとが様々あることは実感している。ただし、高齢者の状況把握という点で、住民の方と接点を持てる部分に限りがある。住民訪問や、地域支援に係る会議の場を活用して、情報を把握していきたい。</p>

事務局	<p>(3) 上尾市介護保険事業計画のモニタリング結果について 「施設整備について」(資料3)に基づき説明。</p>
今村委員長	<p>今の説明に対し質疑、意見はないか。</p>
各委員	<p>特になし</p>
今村委員長	<p>以上により、議事を終了する。</p>
事務局	<p>4. その他 次回の委員会は今年10月頃を予定している。日程等決定次第、改めて連絡する。</p>
事務局	<p>5. 閉会 ・副委員長 あいさつ</p>

以上